No.1963　　2025.2.23

市議会議員
森下さちこ

民主安城 日曜版

発行　日本共産党安城市委員会
（安城市池浦町丸田117　TEL/FAX：75-2903）
～日本共産党の活動を紹介します～
安城市議団Web

高齢者の暮らしを支える新規事業

―2025（令和7）年度 安城市当初予算案―

３月市議会に提案される2025年度予算案に高齢者の暮らしを支える新たな事業が盛り込まれています。新規事業の一部を紹介します。

高齢者のコミュニケーション確保のため 補聴器購入費用の一部を助成

日常生活におけるコミュニケーションを確保し、認知機能の低下や閉じこもり等を防ぐとともに、社会参加の促進を図るため、高齢者に補聴器の購入費用の一部を助成します。

【対象者】

以下の要件を満たす市内に住所を有する者

①65歳以上

②両耳の聴力レベルが30デシベル以上で医師により補聴器の必要性が認められている

③身体障害者手帳の交付の対象ではない

【助成額（１人につき1回）】

補聴器本体（片耳もしくは両耳）及び付属品の購入費の２分の１

上限額：住民税非課税世帯３万円

課税世帯１万5000円

【申請の流れ】

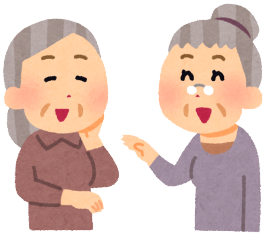
①病院で聴力検査後、医師の意見書を取得

②認定補聴器技能者在籍の店舗で見積書取得

③市役所に申請

④見積書を作成した店舗で購入

⑤助成金請求



【施行日】

2025年４月１日

要介護高齢者世帯のごみの戸別収集を開始

（あんしんふれあい収集事業）

家庭のごみをごみステーションへ捨てに行くことが困難な世帯に対し、自宅敷地内や玄関先から直接収集します。

【対象世帯】

要介護１以上の高齢者のみで構成される世帯

【実施地域】

石井町、和泉町、榎前町、東端町、根崎町、城ヶ入町

【実施スケジュール】

2025年４月　周知開始

６月　申請受付

申請者の状況確認

７月　個別訪問収集開始

香川県高松市の公共交通施策を視察

市とバス会社の信頼関係が良好

森下さちこ議員は２月５日、岡崎市、みよし市の日本共産党議員とともに、高松市の公共交通施策について視察を行いました。

条例制定で公共交通利用促進

岡山駅から快速マリンライナーで１時間程度。瀬戸大橋を渡ると四国の玄関口・高松市です。

中心市街地は海に面し、鉄道駅、バスターミナル、港が近接しています。丸亀町丸亀商店街は再開発による復活に成功したとして、2018年に安城市まちづくり特別委員会も視察に訪れています。

高松市の公共交通施策の特徴は、2013年9月に制定した「公共交通利用促進条例」に基づく点です。

条例では安全かつ快適で人と環境にやさしい都市交通の形成と、多核連携型コンパクト・シティの実現を掲げています。

都市計画と公共交通計画を一体に推し進め、将来に向けた公共交通ネットワークの再構築が実施されました。

具体的には、①郊外部と公共交通結節拠点間のフィーダー路線化　②バス路線空白地域や施設と公共交通結節拠点を経由する循環系統の運行　③都心地域内の主要施設・拠点を有機的に連絡する循環系統（まちなかループバス）の強化を進めています。

【高松市】	【安城市】
人口：42万2400人	人口：18万8800人
面積：375.54㎢	面積：86.05㎢
財政力指数：0.79	財政力指数：1.23
決算額：1734億円	決算額：721億円
【市内公共交通】	【市内公共交通】
ＪＲ予讃線・高徳線	ＪＲ東海道本線（２駅）
琴平電鉄（３線）	ＪＲ東海道新幹線（１駅）
ことでんバス（６路線）	名鉄本線、西尾線（7駅）
まちなかループバス	あんくるバス（11路線）
タクシー（３社）	あんくるタクシー
フェリー	名鉄路線バス（２路線）
高松空港　他	タクシー４社

すぐに相談できる信頼関係

市内を走ることでんバス㈱は以前、経営破綻し民事再生法の申請に至りましたが、「利用者の声を吸い上げる仕組み作り」を強化し、経営再生を果たしました。

市とともに公共交通ネットワークの再構築を実施することで徐々に利用者が増加しました。バス会社の経営が安定することで、市の財政負担も減少し、相互の信頼関係も深まっているようです。

高松市は条例の中で市の責務を「公共交通の維持・改善が可能な街づくりを推進し、利用促進に係る施策を実施する」と明確にし、民間企業との連携を強化することで、

市民が利用しやすい公共交通の再構築に成功しているのではないかと感じました。

お困りごとなど、お気軽にご相談ください。

弁護士による無料法律相談もあります。
法律相談には予約が必要です。
森下さちこ議員まで。090-1276-4120

Facebook　　X（旧Twitter）